

2003年度山本・正野論文賞候補者の推薦募集

日本気象学会の山本・正野論文賞は、(旧)山本賞(新人賞)の発展として1990年度に発足し、2003年度はその14回目に当たります。この賞は前2年度内(2001年4月から2003年3月末まで)に発表された気象学に関連する論文の中から、基礎研究・応用技術研究を問わず、新進(受賞年度に原則として35歳未満)の研究者・技術者による優秀な論文を選び顕彰するものです。論文公表の雑誌は国内・国外を問いません。

これまでの受賞者は、'90年度：向川 均(気象大学校)、'91年度：佐藤 薫(京都大学)、'92年度：田中 博(筑波大学)、'93年度：沼口 敦(国立環境研究所)、牛丸真司(沼津工業高等専門学校)、'94年度：中村 尚(東京大学)、'95年度：小池 真(名古屋大学)、森本真司(国立極地研究所)、'96年度：謝 尚平(北海道大学)、'97年度：植田宏昭(筑波大学)、小林文明(防衛大学校)、'98年度：堀之内 武(ワシントン大学)、'99年度：加藤輝之(気象研究所)、山本 勝(和歌山大学)、'00年度：日暮明子(国立環境研究所)、藤原正智(北海道大学)、'01年度：谷本陽一(北海道大学)、渡部雅浩(東京大学)、'02年度：竹村俊彦(九州大学)、高谷康太

郎(地球フロンティア)の20氏です。

つきましてはこの趣旨に沿う候補者(論文)を選考するために、下記により広く会員からの推薦(自薦も歓迎)を募りますので御協力をお願い申し上げます。

日本気象学会山本・正野論文賞候補者推薦委員会

藤吉康志, 岩崎俊樹, 小林隆久, 中根英昭, 中村 尚, 吉崎正憲

記

1. 推薦期限：2003年4月4日(金)
2. 宛 先：
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内(社)日本気象学会
山本・正野論文賞候補者推薦委員会
3. 推薦書記入事項：(A4版横書き1枚程度)
 - (1) 候補者所属・氏名(可能であれば生年月日も)
 - (2) 当該論文題目・雑誌名・年・号数・頁数
 - (3) 推薦理由(共著の場合は特に候補者の貢献を明確に)
 - (4) 推薦者所属・氏名

2003年度堀内賞候補者の推薦募集

日本気象学会の堀内賞(1998年度より堀内基金奨励賞を堀内賞と名称変更)は、気象学の境界領域・隣接分野あるいは未開拓分野での調査・研究・著述等により、気象学あるいは気象技術の発展・向上に寄与しているものに贈られる賞です。これまでに過去15回の顕彰が行われ、2003年度はその16回目に当たります。

堀内賞候補者推薦委員会は同賞受賞者選定規定に基づき、候補者を理事長に報告します。

これまでの受賞者は'88年度：深尾昌一郎(京都大学)、松井孝典・阿部 豊(東京大学)、89年度：花輪公雄(東北大学)、内藤勲夫(国立天文台)、'90年度：近藤 豊(名古屋大学)、吉川久幸(気象研究所)、'91年度：大村 纂(スイス連邦工科大学)、'92年度：及川武久(筑波大学)、山田道夫(京都大学)、'93年度：岡本謙一(通信総合研究所)、巻出義紘(東京大学)、'94年度：津田敏隆(京都大学)、'95年度：竹内謙介(北海道大学)、'96年度：山中康裕(東京大学)、田平 誠(愛知教育大学)、'97年度：川村 宏(東北大学)、神沢 博

(国立環境研究所)、'98年度：忠鉢 繁(気象研究所)、'99年度：松枝秀和(気象研究所)、原蘭芳信(農業環境技術研究所)、'00年度：小池俊雄(東京大学)、'01年度：久保田雅久(東海大学)、小池 真(東京大学)、'02年度：河村公隆(北海道大学低温研究所)、林田佐智子(奈良女子大学)の26氏です。

つきましては、この規定の主旨に沿う最も適切な候補者を選定するための参考資料として、下記のとおり広く会員からの推薦(自薦も歓迎)を募りますので御協力をお願い申し上げます。用紙はなるべくA4判横書きを希望します。

日本気象学会堀内賞候補者推薦委員会

津田敏隆, 神沢 博, 小池俊雄, 松枝秀和, 山本哲生

記

1. 推薦期限：2003年4月25日(金)
2. 宛 先：
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内（社）日本気象学会
堀内賞候補者推薦委員会

3. 推薦書記入事項：

(a) 候補者所属・氏名

(b) 推薦する業績

(c) 推薦理由（主たる論文リストを含む）

(d) 推薦者所属・氏名



第2回モンスーンシステム解明のための領域気候数値モデルに関する ワークショップの開催案内と講演発表募集について

主催：地球フロンティア研究システム, GAME 国際
科学パネル

開催日時：2003年3月4日（火）から6日（木）

開催場所：地球フロンティア研究システム
交流棟2F 三好記念講堂

ワークショップの主旨

領域気候数値モデルはモンスーンのような領域スケールの気候システムの解明に対し有効な道具の1つとして考えられています。領域気候モデルは全球大気気候モデル（GCM）と比べて積雲対流パラメタリゼーションに依存しない雲解像シミュレーションが比較的容易に可能であることなどの利点があります。しかし、領域気候数値モデルの物理過程や側面境界条件など解決困難な問題も依然として多く残されています。

領域気候モデルにおけるこれらの問題点を明らかにし、将来的な発展に対する方向性を議論するとともに、モンスーンなど気候システムへの応用についての意見交換を行うことを目的として、GAME-Phase2では「モンスーンシステム解明のための領域気候数値モデルに関するワークショップ」を以下の日程で開催いたします。なお、2001年10月にハワイの International Pacific Research Center (IPRC) で開催された「第1回領域気候モデルワークショップ」を継承する形を取るため、ワークショップの名称に「第2回」を冠します。

講演発表募集：

以下のテーマで講演発表の募集をいたします。要旨

を英文で600 words程度にまとめ、下記のワークショップ実行委員宛てに郵送して下さい。要旨集は当日配布いたします。発表形式は口頭発表とポスター発表で行う予定です。

英文要旨を郵送の際にご希望の発表形式をお知らせください。口頭発表ではプロジェクターとOHPが使用できます。なお、口頭発表の希望者が多い場合はポスター発表に変更していただく場合もありますので予めご了承ください。

講演原稿提出締切：2003年2月10日（月）

テーマ：

- ・領域気候数値モデルの問題点
- ・モンスーンシステムへの応用
- ・モンスーンに関連した領域大気プロセスの短時間シミュレーション
- ・雲解像度気候モデルの可能性
- ・領域気候モデルおよび水文モデルの検証と相互比較

ワークショップ実行委員：

木村富士男（FRSGC, 筑波大学）

里村 雄彦（京都大学）

Yuqing Wang（IPRC, ハワイ大学）

連絡先：〒305-8571

つくば市天王台1-1 筑波大学地球科学系

筑波大学地球科学系 木村富士男

e-mail fkimura@atm.geo.tsukuba.ac.jp